

留学生生活で感じた事(2)

元留学生

張

Zhang

秋

Qiu

萍

Ping



日本人のやさしい気持ち

今の中国において、たいいはいは日本に対して「日本は礼儀の正しい国である」という印象が深いのです。私もそう思っています。四年も前のことなのですが、中国は、対外開放の政策を取ったばかりなので、とくに年配の多くは、女性一人で日本という資本主義国へ留学に行くのをたいへん心配していました。私の母もその一人でした。

私自身も、昔仕事場で日本人と知り合いになって、日本人から日本のことをたくさん聞きました。しかし、初めて自費留学生として広島に行くのも、何となく不安でした。

けれども、初めて広島に出会ったことや、道を親切に教えてくださったことや、ホテルまで見送っていただいたことや、部屋を探してくださったことや、特に奨学金をいただいたことなどで不安も取り除かれ、広島大学で安心して勉強ができました。

こうしたことを通じて、日本人の、留学生に対するやさしい気持ちが伝わってきました。それは日本人の心です。私の眼からみれば、日本人はやさしいのです。特に年配の方が、中国の留学生に対して親切だと思います。

桜から見た集団性

広島に一年間滞在してたくさん日本人と知り合いになって、非常に楽しいです。特に興味深いのは、桜の花が満開の時期の花見のことです。

四月には、南から北まで、桜の花が咲きます。桜の木の下で音楽を流しながら踊ったり唄ったりする日本人がたくさんいることにびっくりしました。

なぜ、桜の花が、たくさん日本人の心を打つのでしょうか。もちろん、昔から桜が日本を代表する花であるからと考えます。

その理由を申し上げますと、桜の花は一緒に咲き、一緒に散り、それは日本人の団結と集団性を表すのではないのでしょうか。その精神こそ、日本を世界一の経済大国にさせたのではないのでしょうか。またその団結性と集団性は、日本民族のもっとも優れているところではないでしょうか。日常生活のなかにも、その優れている品性がよく表れています。例えば、広島大学の学生は、他人の前では先生の悪口を言わない習慣があります。もちろん、学生たちは先生に対して自分の見方を持っています。けれども先生を尊敬しています。日本は、団結と集団性のおかげで成功した例はたくさんあります。

広大教育のすばらしさ

例えば、八〇年代、九〇年代に、日本と他国との摩擦がよく起こったことです。それは日本民族が団結しすぎて、他民族への心配りが足りなかったのでしょうか。

広島大学で一番印象的なのは、研究室の特研でした。特研が始まる前にコーヒーを用意してくれました。特研はいつもコーヒーを飲みながら、軽い雰囲気の中で始まります。

しかし、指導教官も学生も真面目です。指導教官は、いつも学生が発表したものを丁寧に一つひとつ直してくださいました。日本の指導教官と講師は、授業を教えるほかに、研究をなさっています。その研究の仕事は、中国の教育方法と違っています。例えば、日本側の教授と講師は、論文を書く場合にデータと図などで問題を解決します。中国の教育方法は、主に理論から理由を述べます。日本の大学教育において、科学的、合理的なものは、中国の大学教育にとって学ばなければならないところがたくさんあります。例えば、広島大学は、授業が始まる前に来学期の科目を一覧表にして

発表します。学生はその表をゆっくり見て選択し、先生を選ぶことからその先生の授業を評価しているのではないのでしょうか。

また、日本の大学生が、卒業する一年前に就職先の試験を受け、卒業する前に自分の進路が分かっていることは、非常に優れているやり方です。もちろん日本の大学教育において不合理なものがないわけではないでしょう。例えば、日本の大学入学試験は厳しすぎると思います。その試験制度は、試験地獄制度だと言われているわけでしょう。

プロフィール

私は一九五八年に中国の上海で生まれました。一九七七年プロ大革命後、初めての全国统一試験で大学に入りました。四年後、上海外国語大学日本語学部を卒業しました。

一九八六年から二年ほど大学で比較教育を担当しました。

一九八八年十二月から一九八九年十二月まで、広島大学教育学部で自費留学生として広島に滞在しました。

現在、上海市高等教育研究所に勤め、助理研究員として比較教育についての研究を続けています。



▲1989年 日本の友だちと一緒に、広島「海と島の博覧会」で撮った写真

今日はお日ハオ！ 你好